



参考資料：「㊦古都のぶどう」 遠藤実さん 1995 年作  
参考図書：「岡山のプロウ」 著者発行者岡本五郎教授

## 古都のぶどう年表 昭和～

昭和 3 年 (1928 年)	北海道に出荷。函館、小樽、札幌、旭川、帯広、釧路、樺太へ貨物輸送し、遠藤春太郎氏は出荷と共に北海道に赴いた。
昭和 7 年	台湾出荷、水内保二氏が随行。
昭和 9 年 (1934)	朝鮮出荷、水内保二氏が随行。 岡山県の温室ブドウ四万二千坪、古都三千坪。 県果物同業組合の副会長西崎嘉太郎氏が、岡山県温室ブドウ部長。 大早魘（だいかんばつ）の年は、高く売れキャンベルの大增殖。 当時の出荷量は 15 万貫、質量共に岡山県トップで遠藤春太郎氏が県のブドウ部長。 その当時富有柿は 3ha 有り、京阪神、京城 <sup>㊦</sup> 、平壤の林商店へ大量に送った。※50 年代は青森へ送った。ブドウの品種はキャンベルが 7 割、三尺ブドウ、テラ、アレキ。
昭和 9 年	古都宿で夏に集中豪雨のため百間川の堤防が決壊し、多くの田やキャンベル畑が泥水に浸かった。 果実は生食出荷が不可能になり、出荷組合は急きょ、県工業試験場の指導を受けジュース加工施設の立ち上げ。ジュースは「古都美（こづみ）」の名称で販売。この加工場は後に休業。
昭和 10 年	上海、満州に進出し遠藤春太郎氏は大連、新京、奉天に赴いた。
戦後	水内和夫氏が組合長。
昭和 20 年	22 年対立関係にあった <sup>㊦</sup> 組合と合併し、 <sup>㊦</sup> 園芸協会と名を改め拳村一致の体制となった。



参考資料：「㊦古都のぶどう」遠藤実さん 1995 年作  
参考図書：「岡山のプロウ」著者発行者岡本五郎教授

昭和 23 年	長野で全果連の全国大会が開かれ、遠藤実氏はキャンベルの間伐の意見発表を行い 15 名中 2 位となり、日園連会長賞を授与。
昭和 32 年	岡山県主催ブドウ園共進会があり、森国聡氏のキャンベル園が 1 位となり農林大臣賞を授与。 岡山果研のキャンベル品評会で遠藤実氏と鈴木春保氏が同点 1 位となり、園芸連会長賞を授与。
昭和 33 年	鉄が 10ha のブルドーザーによる開墾を行い、マスカット・ベリー A を植えた。ブドウのビニール栽培が始まり、ビニールブドウ園が竹と木で出来た。 20ha に及んで山梨、大阪、島根、福岡と見学が殺到。 ※昭和 30 年代、日本一のキャンベル産地として、毎年全国から数千二人の人が訪れた。農業高校の実習生も夏休みに来た。 千葉印旛農高、愛知安城農高、兵庫県農、佐賀県農、高知春野農高等 15 校に及び 2~3 年連続 20~50 名。香川、徳島の若い男女労務者が毎年 80 人位、7 つの選果場で働いた。
昭和 40 年	組合員 190 名、面積 100ha、生産量 2500t、キャンベル 87%、ベリー A 11%、その他 2%。量において県下一。
昭和 43 年	ブドウの針金によるトンネル栽培を㊦資材部田中秀夫氏・田中宏美氏が考案し、副会長で岡山市の農業委員の堀木義信氏が普及。 全国では 24700ha、岡山県 1470ha、ベリー A、ネオマス、ピオーネの大部分が 5000ha あっという間にトンネル栽培になった。雨の多い日本のブドウ農家にとって画期的な発明であり、田中宏美氏は県知事表彰を受けた。



参考資料：「㊦古都のぶどう」 遠藤実さん 1995 年作  
参考図書：「岡山のプロウ」 著者発行者岡本五郎教授

昭和 44 年	<p>水内和夫氏は勇退し西崎勝文氏が組合長。</p> <p>水内氏は県園芸連副会長、プロウ部長、古都農協組合長も永くつとめ、勲五等端宝賞を授与。</p>
30～ 50 年代	<p>北海道、東北、京浜、名京阪神、中四国、九州と 56 社を指定し販路拡張の時代だった。50 年末には沖縄にも進出。</p> <p>日本一の神田の東京青果に 1 割を送り、北海道へ半分送った年が続き 4 億 5 千万の売上があった。</p> <p>農林省のコールドチエインの委託試験に成功し、それを利用して舞鶴から日本海フェリーで小樽に上陸し保冷輸送に成功。</p> <p>一日出荷量 4kg 箱で 15000 枚、キャンベル 9000 枚、ネオマス 2000 枚を 10 日間北海道 8 社へ連続出荷し、これが済むまで山梨のネオマスを指し留めたことがあった。</p>
昭和 49 年	<p>田中宏美氏が超早期加温デラウェアの 4 月上旬出荷を考えだし、10 名が同調し 20 年続けて 4、5、6 月の継続出荷。日本一早いプロウ出荷である。</p> <p>4 月中、東京銀座のニュー千疋屋、八丁目千疋屋本店、新橋千疋屋総本店、日本橋三越本店、銀座三越、新宿の高野などの東京の超一流高級果物店の店頭で 20 年も㊦のプロウが並んでいる。</p> <p>※東京青果 2kg 箱 4 万円、六店の小売値 2kg 箱 6 万円（日本一高いプロウの相場）</p> <p>田中角栄氏が倒れ、見舞いに 6 万円のプロウを持って行った人があった。天皇陛下が皇太子の時、瀬戸大橋の開通式に見え、お礼に長野知事が 4 月中旬上京し㊦のデラウェアを献上された事もあった。</p>



参考資料：「㊦古都のぶどう」遠藤実さん 1995 年作  
参考図書：「岡山のブドウ」著者発行者岡本五郎教授

昭和 56 年	遠藤実氏が組合長、砂川右岸土地改良区の理事長。
平成 2 年	遠藤実氏退任、西崎秀夫氏が組合長。西崎氏は永く農業委員あり、西大寺農協理事、経済連ブドウ副部長もつとめた。 副会長の羽原巨男氏は、㊦施設ブドウ研究会長。